



韓国・中国への 反転大攻勢

【歴史編】

「慰安婦」を言う資格なし！

韓国のベトナム大虐殺を告発する

ベトナム戦争に出兵し、民間人を大量虐殺した韓国軍。現地には、被害者の追悼碑や残虐非道を描いた壁画が数多く残されている。人知れず韓国の人類史的犯罪を告発し続けているモニュメントの数々を紹介する(巻頭グラビア参照)

「シンクタンク戦略大学」主宰 ●きたおか・としあき

神奈川大学名誉教授 ●きたおか・まさとし

北岡 俊明

北岡 正敏



驚くべき虐殺の数々

まず、表1を見ていただきたい。

筆者たちが立ち上げた「韓国軍の戦争犯罪調査チーム」が、平成二十五年九月と平成二十六年二月の二度にわたってベトナムを訪問して調査した、ベトナム戦争中の韓国軍による民間人大量虐殺の犠牲者の数である。もちろん、これは韓国軍が起こした虐殺事件の一部である。

図1は、それをベトナムの地図にプロットしたものである。また、巻

頭グラビアの写真は、虐殺の地に建

っている慰霊廟である。この慰霊廟

こそが、韓国軍が犯した民間人大量

虐殺の動かぬ証拠である。なぜなら

ば、各地の慰霊廟には、韓国軍によ

って殺戮された犠牲者の名前がひと

りひとり刻まれているからである。

今回、我々が調査した慰霊廟は十

九カ所であった。犠牲者数は約二千

八百人であった。一部の地域を調査

したフイーエン省をいれると約五千

人である。ベトナム全土で、約百カ

所、一万人から三万人の虐殺があつ

たと推計している。

問題は、これほどの民間人大量虐

殺事件が、戦争犯罪として断罪され

ていないことである。このベトナム

の民間人大量虐殺は、戦争犯罪の中

の、「人道に対する罪」である。人

道に対する罪には時効はない。過去

も、現在も、未来も、追求される巨

大な犯罪である。

韓国による大量虐殺の事実が、世

界に明らかになると、韓国の国際的

地位は大暴落するだろう。国家と国

民の名誉は地に落ち、国際社会を大

手をふって歩けなくなる。韓国は、日本の歴史問題や慰安婦問題を非難する前に、みずからの犯した巨大な罪を反省し、ベトナムをはじめ世界に謝罪しなければならない。

日本の戦争は、すでに清算されている。理不尽な裁判だったが、七人のA級戦犯が処刑された。アジア各地で、BC級戦犯約一千人が処刑された。しかし韓国の戦争責任は終わっていない。戦争犯罪に時効はない。ルワンダ国際戦犯法廷、旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷のごとく、韓国の虐殺責任者は「韓国国際戦犯法廷」で裁かれねばならない。

大量虐殺の動かぬ証拠

日本でも、アメリカでも、イギリスでも、どの国でもいい、国内にこんなにも多数の慰霊廟（碑）が建立されている国は、見たことも聞いたこともない。しかも、すべての慰霊廟は、韓国軍というたった一カ国の軍隊による虐殺の慰霊廟である。

表 1 韓国軍による大量虐殺の犠牲者数

※カッコ内の数字は、他の資料や証言にもとづく数字。

(1) ピンアンの大虐殺	1004人
(2) ゴーザイの虐殺	380人
(3) フック家の虐殺	10人
(4) トータン村の虐殺	58人 (88人)
(5) タンザン村の虐殺	46人 (54人)
(6) ニョーラム村の虐殺	300人 (143人)
(7) キンタイ村の虐殺	37人
(8) ソンミ博物館 (米軍)	
(9) カンラム村の虐殺	84人 (100人)
(10) ディエンニエン村の虐殺	112人 (143人)
(11) フォックピン村の虐殺	68人
(12) チャインの戦勝記念碑 (軍民間人とも数千人が戦闘で死亡)	
(13) ロンビン村の大虐殺	430人
(14) 36名慰霊碑 (上記の数に含まれる)	
(15) イギリス人の慰霊廟 (//)	
(16) フォンニ村の虐殺	74人
(17) ハミ村の虐殺	135人
(18) フーイエン省	2000~3000人
小計	5000人以上①
(19) その他犠牲者・推計	5000人~15000人②
①+②=全犠牲者数	最小1万人~最大3万人

ベトナム戦争の主人公であるアメリカ軍の慰霊廟はソンミ村一ヶ所だった。これはアメリカ軍が、ソンミ事件以外、虐殺事件を起こさなかったからである。これも驚くべき真実である。ベトナム戦争における大量虐殺事件のほとんどすべてが、韓国軍によるものである。韓国軍とは、軍規が弛緩した最低最悪の軍隊だった。

慰霊碑には、「憎悪の碑」「恨みの碑」「怒りの碑」という名が刻んであった。今回の調査では、数多くの人が、韓国に対する憎悪と恨みを語った。今もなお、現地には、韓国に対する憤怒の感情が充満していた。

韓国軍による最大級の虐殺事件は、中部ビンディン省のビンアン大虐殺であった。ビンアン慰霊廟には、一〇〇四名を慰霊してあった。

ゴーザイという丘では一時間で、三百八十名を殺戮した。これは太平洋戦争中の話ではない。戦後も戦後、一九六六年の出来事である。クアン

ガイ省のロンビン村の虐殺事件では、慰霊廟に四百二十二名の名前を刻んであった。今回の調査中、数十名から百名単位の慰霊碑はいたるところにあった。

調査が十分にできなかったフイーエン省では、少人数の虐殺事件が、広範囲で数え切れないほど起きていた。この省だけで犠牲者は二〇〇〇～三〇〇〇人と推計している。しかも、慰霊廟がほとんどない。村が全滅し、慰霊する人がいないためである。これでは虐殺されたベトナム人の霊魂は浮かばれず、さまよったままだろう。早急に慰霊碑をつくり鎮魂してあげてくれることを日本人として強く願う。

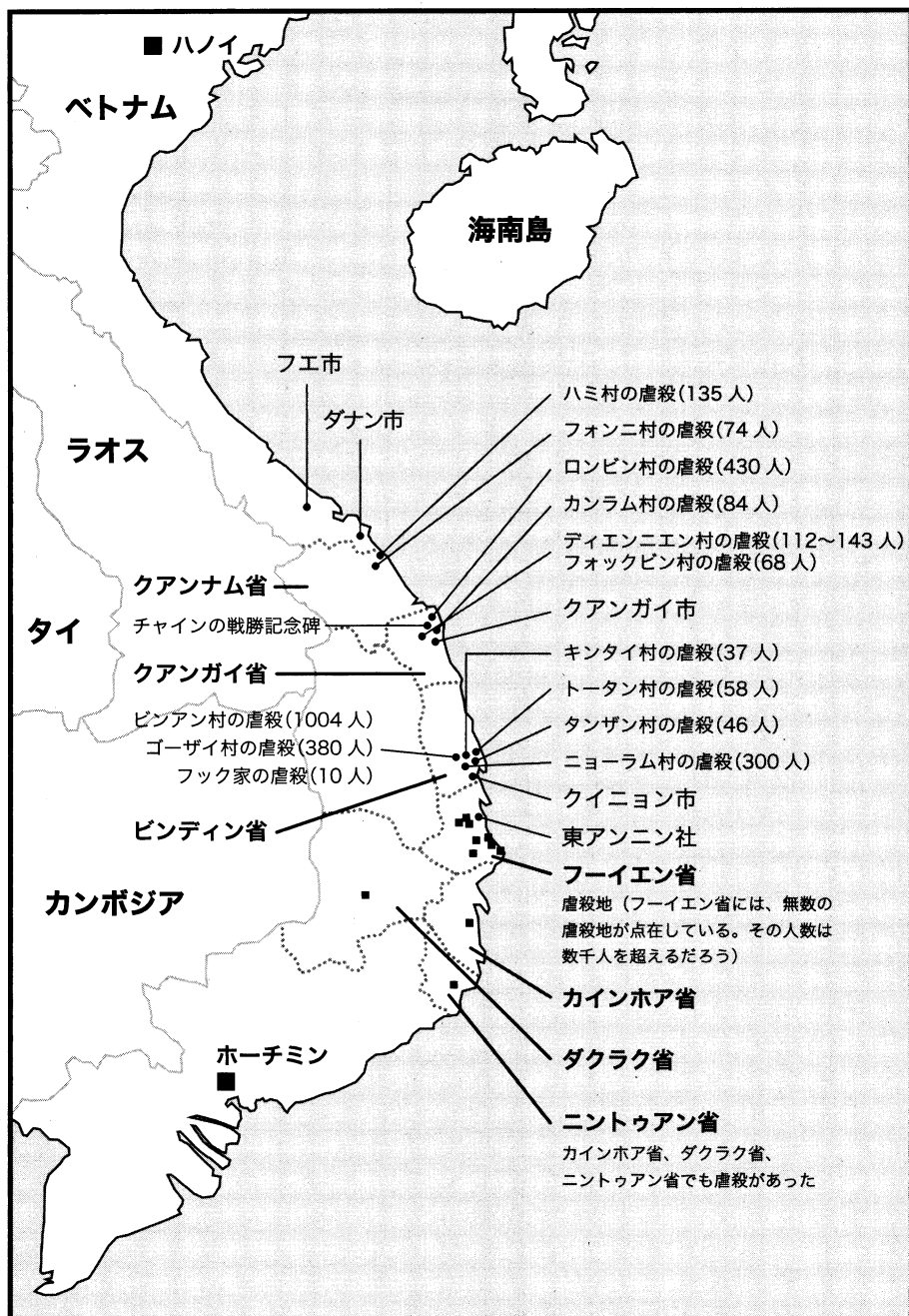
韓国は戦犯法廷で裁かれねばならない

問題は、韓国による大量虐殺事件が、国際的に表沙汰になつておらず、したがって、戦争犯罪として裁かれていないことである。闇に葬り

去られる可能性すらある。韓国では、ベトナム戦争は共産主義との正義の戦いだった、という肯定意見が大勢である。これもアメリカ世論との違いである。アメリカではベトナム戦争を賛美する意見は少数である。一方、韓国の江原道には、ベトナム戦争を賛美する、四万坪の広大な施設、「ベトナム参戦勇士との出会の場」がある。さらに、韓国全国に、百カ所にものぼるベトナム戦争への「参戦記念碑」がある。これらは、韓国がベトナム戦争を反省もせず、まして、大量虐殺を謝罪するつもりがさらさらしないことの証明である。

ベトナム人の大量虐殺事件は、韓国現代史の一大汚点、一大恥部である。韓国が、弁解しようと、弁護しようと、大量虐殺は「人道に対する罪」という戦争犯罪であつて、重大な国際法違反事件である。隠し通せるものではない。いづれ韓国は世界に向かって謝罪せざるをえなくなる

図1 ベトナム戦争における韓国軍の民間人大虐殺の地図



だろう。その罪を追及する尖兵として、筆者たちは本論文を書いていく。

韓国では、自分たちの大量虐殺事件を隠すために、慰安婦問題や歴史問題を持ち出し、問題をすり替えようと工作しているフシがある。とくに、情報を知る立場にある歴代大統領は、大量虐殺事件を、意図的に隠蔽していると筆者は考える。

「人道に対する罪」という戦争犯罪に時効はない。韓国の大量虐殺事件は、今後、国際的に明らかにするし、筆者達は、韓国の戦争犯罪を徹底的に追求する。こんな残酷行為が、放置され、闇に葬られては、国際法の正義が意味を失う。また、虐殺されたベトナムの人々を慰霊し、その遺族に補償をしなければならぬ。

どこで何人が虐殺されたのか

韓国軍による大量虐殺がどこで行われたか全体像を明らかにしよう。

前頁の図1は、ベトナム全土の主な虐殺事件の場所である。フーイエーン省、ビンディン省、クアンガイ省、クアンナム省に虐殺地が集中している。とくに、ビンディン、クアンガイ、クアンナムの三省に多い。我々も、前回と今回、この三省を中心に調査した。

図の中で、人数が書いてあるのは、虐殺された犠牲者の数である。我々が現地で確認した数字である。これらの数字には誤差がある。これは博物館で調べた数字、現地の慰霊廟に刻んだ数字、現地の人間の証言などに違いがあるからである。

全体として控えめな数字である。実際はこれよりもはるかに多いと推測している。

平成二十六年二月一日、成田からホーチミン市に入り、ホーチミンから空路一時間のクイニョン市に入った。地図にあるように、クイニョンは、ベトナム中部のビンディン省の最南部に位置する二十四万人の市で

ある。ここを拠点にして、南部のフーイエーン省、北部のビンディン省の調査から開始した。

調査のやり方は、各省の博物館を訪ね慰霊廟を探し出すことから始めた。博物館で写したデジカメ写真を、現地の人に見せながら、しらみ潰しに歩いた。東京は雪だったのが、ベトナムは、日中、三五度を超えていた。田舎の果ての果てまで入り込んで調べた。なぜかという、慰霊廟は、都市にはなく、ベトナムの地方の田園風景の中に、忽然と存在するからである。これは虐殺が農村地帯で起きたからである。車が川に落っこちるのではないかと思うような、狭い田舎道に入り込む恐怖も味わった。

お蔭様で、次々と大量の虐殺現場を発見した。これは犠牲となったベトナム人の霊魂のお蔭だろうかと思ったことが何度もある。あまりの残酷非道ぶりに、怒髪天をついた。疲労困憊したが、大げさな話ではなく

正義のため、人道のため、ベトナムのため、という動機が、我々を突き動かした。連日、朝八時から夕方七時すぎまで、十一〜十二時間も歩き回った。これを十日間やった。昭和十六年生まれの実兄、昭和十八年生まれの私、この二人のジジイ軍団が、よくぞ耐えたと思った。

今回のフィールド調査では、十六カ所の慰霊碑と三つのお墓を調査した。その中から、以下、代表的な場所を紹介し、韓国的大量虐殺の事実を明らかにし、告発したい。

■ビンアン大虐殺

①犠牲者 一〇〇四名

②時期 一九六六年一月二十三日
〜二月二十六日

③場所 ビンディン省・テイソン
県・ティビン社

④調査訪問日 平成二十六年二月
二〜三日

今回の調査で、最初に訪れたのが、ビンディン省のビンアン虐殺の

現場である。クイニョン市から一号線を三〇キロ北上した場所である。

立派な慰霊廟が建っている。二〇〇六年に建立したものである。韓国軍の虐殺事件の中でも、もつとも大きな虐殺事件である。ビンアン周辺、十五カ所の村々で、一九六六年一月二十三日から二月二十六日の間に、一〇〇四人の農民を虐殺したのである。

ひと口に一〇〇四人の殺戮というが、その悲惨さをイメージするため、太平洋戦争の空襲の例を出そう。昭和二十年七月、わが故郷徳島市が米軍の空襲受け、一晩で約千名が焼死した。六割が女性だった。徳島空襲も圧倒的な大量虐殺である。

しかし、韓国軍による虐殺は、目の前の人間を、ひとりひとりを銃撃し、刺殺し、手榴弾で殺戮するのである。それが一〇〇四名である。この行為が、いかに残酷な行為であるか。身の毛もよだつとは、こういうことをいうのだろう。

虐殺を描いた壁画

ビンアン慰霊廟には、虐殺を描いた壁画がある。高さ三メートル、左右の長さ二十メートルぐらいある巨大な壁画である。

巻頭グラビアページの写真1（以下番号付き写真は巻頭グラビア参照）は裸の女性が火に焼かれている。写真2は、韓国兵に対して怒髪天をついて怒る老人がいる。そばには死体が累々と横たわっている。韓国兵によって強姦され、悲しみにくれる一人の若い女性とその母親の絵（写真3）もあった。

この壁画は、全ベトナムにおける韓国軍の虐殺を象徴する壁画である。十九カ所の慰霊廟を回り、現地の人に取材したが、韓国兵の残酷性は、すべてこの壁画につきている。韓国兵は、女、子供、老人など弱者を中心に殺戮している。とくに、女性と子供が圧倒的であった。女性を強姦し、妊婦は腹をさいている。

子供は○歳児から十歳未満児が多い。首を切り、手足を切断し、火に放り込みと、考えるかぎりの残虐のかぎりをつくしている。こうなると、もはや人間のしわざではない。鬼畜か、悪鬼の所業である。

それぞれの壁画につけた解説は工学博士であり、数学屋であり、マンガ家でもある北岡正敏教授による。じっくりと見てほしい。

■ゴーザイの虐殺

①犠牲者 一時間で三百八十名が虐殺された。

②時期 一九六六年二月二十六日

③場所 ビンディン省・ティソン県・ティビン社

④調査訪問日 平成二十六年二月二三日

ビンアン慰霊廟の敷地の中にゴーザイ慰霊碑がある。ビンアン周辺で起きた十五カ所の虐殺の一つである。ゴーザイという丘で、わずかに時間の間に三百八十名が虐殺され

た。写真4のように、塔を真ん中にして、左右に、三百八十人の名前が刻んである。

一時間で三百八十人を殺戮したとは、どういう殺し方をしたのか。空襲よりもはるかに残虐である。なぜならば、生身の人間が生身の人間を殺すのである。機関銃か、鉄砲か、拳銃か、銃剣か、短剣か、手榴弾か、迫撃砲か、戦車の大砲か、いずれにしても、人間のすることではない。血潮が飛び、肉が飛び散り、首が飛び、足や手がちぎれる、もうこの世のものではない。地獄である。

今回の調査を通じて、韓国兵とは人間ではなく、悪鬼か、鬼畜かと何度思ったことか。人間が、ここまで残酷になれるのか。朝鮮民族の残虐性をいやというほど見聞した。ベトナムの住民が、今もなお、怒り、恨み、憎悪するのは当然である。

慰霊碑の真ん中の塔には「恨みの碑」と彫ってある。旧正月だったせいか、菊の花が飾られていた。これ

は慰霊碑であるとともに、巨大な墓碑でもある。

韓国兵は弱かった

韓国軍が民間人を虐殺した理由は、韓国兵が弱兵だったからであると、戦争論を研究している筆者は推測する。精強なる軍隊は、農民と解放軍の兵士の違いを、瞬時に判断できる。現にアメリカ軍は、ソンミを除いて、村人を虐殺していない。しかし徴兵制の軍隊である韓国兵は、恐怖にかられて、無差別に殺戮したのであろう。韓国軍では、PTSD（心的ストレス症候群）にかかった兵隊や、自殺した兵隊、脱走してベトナム人となった兵隊も多くいた。

■フック家の虐殺

①犠牲者 一家十名が虐殺された。

②時期 一九六九年二月十二日

③場所 ビンディン省・ティソン県・ティビン社

④訪問日 平成二十六年二月二 三日

ビンアン虐殺慰霊碑から畑の中を、約三キロ歩くと小さな集落がある。その中の一軒の家の前庭に慰霊碑が建っている。これがファン・バン・フックさんの慰霊碑である。フック家では、韓国兵によって、一族十人が殺された。

フック家の事件は、数百人規模の大量虐殺ではないが、大切な家族十人の生命が奪われたという悲劇の話である。フック家の悲劇も、ビンアン大虐殺と同じような、韓国軍の残虐さを証明する事件である。

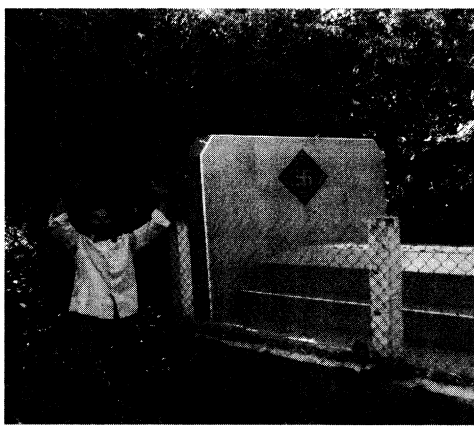
突然の訪問にも関わらず、当主のフックさんは我々を家に迎え入れてくれた。しかも、地ビールのタイガービールを沢山もってきて、飲みなさいと言ってくれた。

フックさんは、七十九歳で、背が高く精悍な顔をしており、威厳と風格があった。現代の日本ではお目にかかれない明治生まれの男のようだ

った。その上、親切で温かい人だった。家の中で四人、庭で六人殺されたと言った。

フックさんの語る虐殺は以下の通りである。

「一九六九年二月十二日、戦車や装甲車を動員して、韓国軍が突然やってきた。大勢の武装した韓国兵が歩いてきた。解放軍と米軍の戦闘は、かならず村の外で行われた。解放軍



「この防空壕跡で6人が殺された」と話すフックさんの息子

は、村が破壊されることを心配して、村から離れた場所に拠点を構えて、米軍と何度も戦ってきた。しかし、今回はこれまでと事情がちがった。

韓国兵が突然、家の庭の前にあらわれた。銃声がしたので、家族のうち、四人は家の中に隠れた。六人は、大急ぎで、家から裏庭まで続いているトンネルを通って防空壕の中に逃げこんだ。この防空壕は、米軍の爆撃を避けるために、庭に深く掘られていた。

韓国兵は、無抵抗な農民や女性や子供には何もしないだろうと、村人は思っていた。しかし、韓国兵は、だれかれかまわず、村人を探し出し、殺戮を始めた。家にいた女性は暴行され、ナイフで切られ、なぶり殺しにされ、老人は射殺された。そして、家を焼き払った。防空壕の中にいた六人に対しては、韓国兵は手榴弾を何十個も投げ込んで爆破した。防空壕を徹底的に破壊した」

結局、韓国兵は、フックさんの父

母と、姉と兄弟、それに親戚の計十名を虐殺した。フックさん氏は農作業で外にいたため、難を逃れた。韓国軍は、農家の一軒一軒に火をつけて焼きはらった。家畜を撃ち殺し、人間は見つけしだい、かたづけしからナイフ、刀、銃、機関銃などで殺していった。

フック家の惨劇は、一〇〇四名のビンアン大虐殺の一つを構成する悲劇の物語である。

他にも、同じような惨劇が多数あった。韓国軍とはなんとという無慈悲な軍隊であるかと、筆者たちは天を仰いで嘆息した。

韓国軍が、フック氏の家を焼き払い、撤退した後、フック氏は自宅に帰った。そして、家の中の四人の遺体を見つけた。さらにトンネルと防空壕を掘り起こし、遺体を収容したが、二名の遺体は見つからなかった。現在、この防空壕のあった場所、墓をつくり、亡くなった人達の

供養をしている。

フック家を訪問したときは、旧正月であつたため、仏壇には亡くなつた人を弔うための飾り付けがしてあつた。その後、フックさんは結婚し、一家の長として家を再建をした。そして、前庭に、小さな墓と記念碑を建設したのである。この慰霊碑は、一九八八年十一月十六日に国の石碑として登録された。

■タンザン村の虐殺

①犠牲者 四十六名が虐殺された
(ビンディン省博物館の資料では五十四名)。

②時期 一九六五年十二月二十二日

③場所 ビンディン省・トイフック県・フックホア社

④訪問 平成二十六年二月四日

トータン村から六四〇号線を三キロほど南下するとタンザン村にく。ここはビンディン省・トイフック

ク県・フックホア社である。ベトナムは、国↓省↓県↓社↓村という順番で表記する。あたりは農村地帯で田園風景が広がっている。

走行している車からかなり大きな慰霊碑がみえた。車から降り慰霊廟に近づいてみると、入り口の鉄柵は腐りかかつて、ところどころ穴があいている。しかし、慰霊廟は、新しく大きくて綺麗だった。正月のために大きな菊の花が二つ飾られていた。

門を入り、慰霊廟に近づくと、四十六名の名前が刻まれている墓碑銘が見えた。事前に訪問したビンディン省博物館の展示資料では、五十四人が虐殺されたと記録されていた。これはたぶん、死体も姓名も特定できない場合があり、人数が異なるのだらう。このように数字が異なることは、今回、多くの場所で経験した。

通訳のチュンさんによると、刻まれている名前から、男十三人、女三

十一人、○歳児二人である。どの慰霊廟をみても、例外なく女性と子供犠牲者が圧倒的である。○歳児を殺戮する韓国兵の神経は理解不能である。

韓国の指導者を戦争犯罪人として裁かないと、虐殺されたベトナム人の霊は浮かばれない。韓国の元大統領で、ベトナム派遣軍の指揮官だった全斗煥と盧泰愚は、人道に対する罪で、国際刑事裁判所に告訴・告発されなければならない。もちろん、総指揮官だった朴正熙は死んでいないので、その娘である朴槿恵は、全慰霊廟をまわり、土下座して謝罪せよと言いたい。

ムエンさんの証言

慰霊廟の調査を終え、横にある家を訪ねて取材することにした。玄関で声をかけると、主人らしき人が出てきて、中に入りなさいと言った。祭壇のある部屋に通された。机をはさんで八十四歳のムエンさんと六十

一歳の息子、ボーさんの話を聞くことができた。ムエンさんは、穏やかな、いい顔をしていた。

慰霊廟は一九九六年に建立したそうだ。門やまわりの鉄柵は古いが、慰霊廟そのものは新しい建物である。この場所には以前から慰霊碑があった。それを建て直したものである。今回、各地の慰霊廟を調査しているが、その中でも、立派な慰霊廟である。ビンディン省は、慰霊碑の建設に熱心である。

しかし、息子さんのボーさんは、取材中、一切笑わなかった。顔の表情からも、ボーさんには、韓国に対する言うに言えない怒りと恨みがあると筆者はみた。

当時、韓国軍は、この街の橋の近くの高地に基地を設けていた。基地には戦車・装甲車・ヘリコプターなどが配備されていた。一九六五年十二月二十二日、韓国軍がやってきて四十六人を虐殺した。息子のボーさんは当時十一歳で、お母さんと一緒

に逃げて助かった。このとき、逃げ遅れた親戚と友人が大勢いて、ほとんどが韓国軍に虐殺された。

今回現地の人に話を聞いて思ったのは、ボーさんのように、子供の頃、虐殺事件に遭った人は、例外なく、韓国を憎んでいるということだ。とくに、父母や兄弟を惨殺された人の憎しみは強烈だった。取材を終え家を辞すと、ムエンさんが表通りまで出てきて、送ってくれた。手をふってお別れを言い、次の村に向かった。

■キンタイ村の虐殺

①犠牲者 三十七名が虐殺された。

②時期 一九六六年一月九日

③場所 ビンディン省・アンニン県・ニューホン社

④訪問 平成二十六年二月四日

ビンディン市から北へ、車で五キロほど行ったところにキンタイ村がある。このあたりは農村地帯で、広

大な田園が広がっている。外の温度は三〇度をはるかに超えている。途中、慰霊碑の情報を聞き込みしながら、車を走らせた。連日、数多くの慰霊廟を巡っていると、どこかの慰霊廟だったか、区別がつかなくなり、頭が混乱してくる。

そのためにも、写真は重要なエビデンス（証拠資料）である。写真は、もの言わぬ証言者である。さらにいうと、最近話題のSTAP細胞騒動ではないが、文章はコピーや捏造が容易だが、写真の捏造や偽造はかなり困難である。文章よりも確実に真実を語ってくれる。さらに、写真さえ撮っておけば、後から記憶を呼び起こすことができる。実際、その通りであった。日本に帰って来てから、執筆するのに、写真と地図が大変役に立った。さらに、写真に日付を写しこんであるが、これも大変貴重な記録となった。時間が分かると、一日の行動を思い出すのである。

さて、キンタイ村の慰霊廟には、午後二時すぎに到着した。車を降りると、大きな慰霊廟が目に入った。入り口の鉄の門は腐食して、半ば壊れかかっていた。

キンタイ村の虐殺の、慰霊廟は不気味な雰囲気をもっていた。慰霊廟は、写真のように、天高くそびえていた。真ん中の塔に書いてある文字は「恨みの碑」と刻まれている。他の慰霊廟のように新しく建設したものではなく、風雨にさらされて立っていた。

真ん中の塔の左右には、見事な彫刻が彫ってあった。コンクリート製なので、近くによってよく見ると、解放軍と韓国軍の戦いを描いた彫刻だった。

■フォックビン村の虐殺

- ①犠牲者 六十八名が虐殺された
- ②時期 一九六六年十月九日
- ③場所 クアンガイ省・ソンティン県・ティンソン社

④調査訪問 平成二十六年二月五日

フォックビン村の虐殺は、韓国軍の残虐性を示す典型的な虐殺事件である。写真は犠牲者六十八人の名前と年齢が刻んである慰霊碑である。七十五歳から一歳児までが殺されている。日本に帰国後、性別、年齢をまとめてみると、六十八人のうち女性が一十六人で、約六八パーセントである。もっと驚くのは、一歳から十六歳までが一十六人もいる。まさに韓国軍は女子供を殺戮している。十歳未満の子供を二十三人も殺している。これはとてもじゃないが、人間のすることではない。

十歳未満の子供と、解放軍の兵士との違いが、韓国兵に分らないはずがない。女と老人・老女と屈強な解放軍兵士との違いが見えないのか。一寸先が見えない暗闇ならいざしらず、ほとんどが昼間である。こうなると、韓国軍の言い訳はきかない。これは明らかに幼児、子供、

女、老人と分かつて殺戮している。明々白々の民間人の大量虐殺である。韓国人は、銃剣で刺し殺す瞬間、銃撃する一瞬、国にいる自分の子供、兄弟、父、母を思わなかったのだろうか。

虐殺から生き残ったグンさんの証言

そのうち、我々のことを聞きつけた近所の人々が七、八人、集まってきた。その中の一人の男性が近寄ってきたので、通訳チュンさんが聞くと、虐殺の生き残りのグンさんだった。現在五十七歳で、当時十歳だった。

グンさんは語った。両親と兄弟の八人が惨殺された。唯一、グンさんのみが、死体の山の中に埋もれて助かったそうだ。韓国兵が立ち去った後、死体の下から這い出し逃げた。今も韓国人に対しては強い恨みがあり、絶対に許さないと語った。グンさんの表情には、両親が殺され孤児になった怒りと悲しみが出ていた。

我が身に置き換えても、もし父母、兄弟が目の前で殺され、幼いゆえに、何もできなかったとなると、成長するとともに、後悔の念はつくり、怒りは増幅するだろう。復讐してやりたいと思うだろう。

ベトナム全土で、どれほどのベトナム人が韓国兵の犠牲になっただろう。補償もなく、誰も復讐をしてくれない。いくら我慢強いベトナム人でも、ふつふつたる怒りはあるだろう。

グンさんは、成長してから、この虐殺事件のことを聞かされた。そして、怒りはますます大きくなったと語った。この記念碑のある場所に、住民八十人が強制的に集められた。子供・女性・婦人・老人であった。韓国軍は、突然、小銃、機関銃、手榴弾でつぎつぎに虐殺を始めた。射撃音とともに逃げまどう人々の悲鳴の声とあたり一面は血で染まった。まさに、その場は地獄のような光景であったそうだ。

この時、母をはじめ八人の家族全員が死んだ。父は撃たれたが、まだ息があった。右脇から弾丸が貫通して、意識不明の重傷であったが、すぐに解放軍の野戦病院に運ばれた。しかし、手術のいかにもなく病院で死亡した。

記念碑に刻まれている名前はこの場所で死亡した人だけである。グンさんの父親のように病院で死亡した人は、名前が記録されていない。グンさんが生き残れたのは、母親がグンさんを抱きかかえて、韓国軍からの射撃を一身に受け止めたためだろうと語った。

子供・女性・老人を虐殺した韓国軍とは、歴史的にも前例のない最悪の虐殺集団である。グンさんは、われわれに強く言った「韓国軍のやった虐殺は、子々孫々まで語りつたえない」と。

■ロンビン村の虐殺

①犠牲者 四百三十名が虐殺された。

②時期 一九六六年十二月五、六日

③場所 クアンガイ省・ビンソン県・ビンホア社

④調査訪問日 平成二十六年二月六日

ロンビン村の虐殺は、ビンアンの虐殺につぐ大量虐殺事件である。巻頭グラビアの写真4は慰霊碑である。四百三十人の虐殺碑と言われているが、全部で四百二十二人の名前が刻んである。この地を含めて九地点の虐殺事件をまとめて慰霊したものである。後の八人は、別のお墓に納められているようだ。連日、調査のためとはいえ、虐殺碑を見ていると犠牲者の数に麻痺してくる。

実は、このロンビン村の慰霊廟の敷地内には、他にも二基の慰霊碑がある。合計、三基の慰霊碑が存在するのである。この四百三十人の碑は、近在のすべての虐殺事件をまと

めて、慰霊してある中心の慰霊廟である。

この慰霊碑の犠牲者の内訳と、殺され方は、後節のイギリス人が建立した慰霊碑のところでのべる。

■三十六名・虐殺慰霊碑

①犠牲者 爆弾の穴の中に入れられ三十六名が虐殺された

②日時 一九六六年十二月五日

四百三十名の慰霊廟から、二〇メートルくらい離れたところに、やや小さな慰霊碑があった。近づくとき、高さ四メートルくらいの慰霊碑である。碑文が見えたので、通訳に翻訳してもらうと、ここで一九六六年十二月五日、三十六人が殺されたと書いてある。

慰霊碑の後に回ると、円形の砂場があった。ここは爆弾の穴の跡である。その跡をお墓にしたのである。

この穴に三十六人が入れられて、虐殺されたのである。老人、子供、女性を、爆弾の跡に追い込んで、上か

ら手榴弾を投げ入れ、銃撃して、虐殺した。とてもじゃないが、人間のすることではない。韓国軍は、やることなすこと、残酷きわまりない。円形の墓の端に、可憐な菊の花を飾ってあったのが印象的だった。さらに、この慰霊碑から三〇メートルくらい離れた所に大きな慰霊碑が見えたので、近寄ってみた。

イギリス人が建てた 四百三十名の虐殺慰霊碑

巻頭グラビアの写真5がイギリス人が建立した慰霊碑である。コンクリート製で、建設後、風雪をへて、全体に色あせ、くすんだ色をしている。不気味な印象といってもいい。他の慰霊碑と違って、何か奇妙な怨念か、執念か、靈魂を感じるようだ。この慰霊碑に刻まれている内容も衝撃的である。犠牲者は、女性、子供、老人ばかりである。

この碑には、女性二百六十八名、子供が八十二名、老人百九名の名が

刻まれている。合計すると四百五十九名となり、四百二十二名の慰霊碑の数と合わない。しかし、このイギリス人の慰霊碑の方がはるかに古く建設されたものである。大混乱の中、虐殺された人達の身元を確認することは困難だったろうと想像している。

元解放軍兵士クックさんの証言

慰霊碑の近くに住む元解放軍兵士のクックさんに取材した。八十二歳であった。三〇歳で解放軍に入隊し、三十九歳まで兵士として戦った。三十一歳の時、負傷したが、十日ほど入院したが、すぐに退院して戦ったそうだった。

負傷は爆弾が原因である。「今も、お腹に破片が残っている」とシヤツをめくって見せてくれたお腹には、大きな傷跡があった。同時に、左足も膝から下を失ったと、立ち上がり、ズボンをめくると、膝から下が義足の足を見せてくれた。

「韓国軍は残虐ですか」と聞くと、「大変残虐だった」と証言した。「アメリカ軍はどうですか」と聞くと、「アメリカ軍は残虐ではなかった」と証言した。これは他の場所でもみんな異口同音に語った。ベトナム戦争では、ソンミ事件があつて、アメリカ軍が残虐行為を働いたというのが、世界の常識になつているが、大なる誤解である。残虐だったのは韓国軍だった。クックさんの奥さん



元解放軍兵士のクックさん（右）

の親戚は十八人殺されたそうだった。

かねがね聞きたいことがあったので、聞いてみた。すなわち「韓国軍は強かったですか」という質問である。しかし、クックさんは、瞬時に「フン」とせせら笑った。十八人の解放軍兵士で、三百人の韓国軍を相手に戦い、百人を殺した。彼らは実戦の戦闘体験がないから弱かったと語った。

韓国でも、日本でも、「韓国軍は強かった」と言われている。しかし、筆者は、韓国軍は強い軍隊というのは、野郎自大な韓国人だからだと、話半分に聞いていた。理由は、精強な軍隊が民間人を虐殺するはずがない。○歳児を殺すわけがない。女を強姦するはずがない。これは世界の精強軍隊の常識中の常識だからだ。

最後に、クックさんが、「日本の援助でベトナムの犠牲者を助けてください」と言った。日本人が来たのは初めてだそうだった。韓国は学校を作

ったが、すぐ壊れたと言った。ボク
キンケイ大統領がベトナムにきた
が、経済進出の話ばかりして、謝罪
すらしていない。

■フォンニ村の虐殺

①犠牲者 七十四名が虐殺された

②時期 一九六八年二月十二日

③場所 クアンナム省・ディエン

バン県・ディエンアン社

④調査訪問日 平成二十六年二月
七日

二月七日、午前八時、クアンガイ
市のホテルを車で出発した。一三〇
キロ北方のダナンへ向かった。四時
間ほど走ると、約四百年前、日本人
が一千人住んでいたホイアン市の郊
外を通過した。午後一時ごろ、フォ
ンニ村の虐殺碑についた。ここは国
道一号線から一〇〇メートル入った
ところである。こんな場所に虐殺碑
があるのかと驚いた。

慰霊碑に近づくと、花輪と線香が
目についた。正月なのできれいな菊

の花が飾つてある。すぐに慰霊碑の
墓碑銘が目に入った。出身地、名
前、生年の順で書いてある。七十四
人である。毎日、虐殺を取材かして
いると、数字に慣れたしまうが、七
十四人という犠牲者の数は恐るべき
数である。

慰霊廟に向かって左手に大きな菩
提樹の木がある。この木の下に村人
を集めて虐殺した。その木は、「野
獣の木」というおどろおどろしい名
前がついている。近づくと、かな
り、大きな古い祭壇があった。線香
が手向けてあった。ここが実際の
墓である。

この野獣の木は、四十六年前の惨
劇をすべて目撃していたのであろ
う。この木の下に立つと、何かしら
靈感を感じるような気がした。も
し、これが夜ならば、怖くて近寄れ
ないだろう。日本ならば幽霊がでる
という噂の場所になるだろう。心霊
スポットである。安らかに眠って
ください、しっかりと手を合せて拜

んだ。同じ仏教徒としての願いであ
る。

■ハミ村の虐殺

①犠牲者 百三十五名の虐殺

②場所 クアンナム省・ディエン

バン県・ディエンデュオン社

③日時 一九六八年二月二十四日

④調査訪問日 平成二十六年二月
七日（第一次調査・二十五年九月十
四日）

ハミ村は、ホイアンから近い。昨
年は情報がなく、ベトナムを順次、
北上し、片っ端から飛び込みで回っ
ており、ハミ村の虐殺碑は、九日間
の調査期間で、やっと見つけた。帰
国後、調べて、この慰霊廟は、韓国
の元軍人達が建てたことを知った。
現地で見えた時、直感として、この慰
霊廟は何かおかしいと、気がついて
いた。入り口に鍵がかかり、誰もお
参りしていなかったからである。今
日も鍵がかかっていた。あらためて
他の慰霊廟とまったく違うことが分

かった。建物は立派だが、人の気配がなく、ただ風が吹いているだけだった。

慰霊廟に近づく、百三十五名の名前を刻んだ墓碑銘(写真8)が見えた。裏に回ると、写真9のように、美しい蓮の花が描かれた壁画がある。これが問題の壁画のフタである。この壁画の下には、韓国軍の残虐行為を歌ったベトナムの詩人の歌碑がある。

この慰霊廟が完成した時、韓国側が、この碑文に対して文句をつけたのである。「自分たちが金を出して建設したのだから、この歌碑を削除しろ」と要求した。韓国兵の残虐行為を赤裸々に書いてあるから、けしからんということである。ベトナム政府は、韓国側の要求を受け入れ、クアンナム省と県に伝えたが、省と県はこれを拒否した。

その後、すったもんだの末、省と県は、詩文の上にフタをしたのである。削るぐらいなら、詩文にフタを

して、とりあえず見えないようにした。フタさえ開ければ、歌碑は目のみえる。ベトナム人のあつぱれな智慧である。韓国側は、ベトナム人の百三十五名の犠牲者の霊を慰め、そして、謝罪のために慰霊廟を建設したはずである。しかし、慰霊碑ができると、馬脚をあらわし、ホンネがでたのである。慰霊は偽善である。表面的に自分たちの犯罪を糊塗するために慰霊廟を作っただけである。参戦軍人たちは、虐殺を反省するふりをしただけである。

その結果、ベトナム人は、誰も、この慰霊廟をお参りしない。他の慰霊廟のように線香が手向けてない。菊の花が飾られていない。花を飾ろうにも、線香を手向けようにも、鍵がかかり、慰霊廟の中に入れない。ベトナム人にとって、韓国人が建設した慰霊廟なんぞ、迷惑だ、こんな慰霊廟なんぞ、意地でもお参りするもんか、そう思っているのではない。筆者が、同じ立場だったら、同

じようにするだろう。

国家総力戦として 大量虐殺を告発する

以上で、代表的な慰霊廟を紹介した。

我々の今回のフィールド調査の結果については、雑誌「正論」と、「展転社」が取り上げてくれることになった。深く感謝したい。展転社は日本のために戦っている大変貴重な出版社である。今回の調査について、六月初めに、『韓国的大量虐殺事件(仮題)』として出版する。

大量虐殺問題は、日本の言論マスコミが、積極的に取り上げ、韓国を世界に告発していただきたい。筆者はアメリカでの翻訳出版を考えている。アメリカは主戦場である。なぜならば、アメリカでは、在米韓国人が、慰安婦像の設置など、ありとあらゆる汚い手段を使って、日本を貶める活動をやっているからである。彼らの活動を止めさせる切り札とし

て、この大量虐殺事件をアメリカ世論に訴えるのである。

なぜなら、韓国の大量虐殺問題は、国内問題ではなく国際問題であり、日本国の名誉と尊厳がかかっている国家総力戦でもある。マスコミ言論界は、日本と韓国の、国家対国家の総力戦・情報戦の重要な一翼を担っている。

今回、雑誌「正論」と展転社などが取り上げることによって、大きな相乗効果を生む。韓国に対する日本の反撃の一大狼煙となる。

今回の調査の目的はただ一つ、韓国の対日侮蔑や、日本を貶しめる行為を、即刻、中止させるためである。筆者達は、自分のために行動しているのではない。自分のためだったら、二回のベトナム調査も、後述する韓国調査も、自腹を切らない。国家と国民のためにやっている。だから自腹である。我々の活動に賛同してくださる読者の皆様のご支援を心よりお願いしたい。

韓国の国際的地位は大暴落する

韓国の大量虐殺事件が、明らかになれば、韓国は日本批判どころか、許されざる非人道国家として、国家そのものが危機に陥るだろう。国際的信用は大暴落するだろう。朴槿恵大統領は、告げ口外交をできなくなる。フェリー沈没事故で支持率が下がった上に、この大量虐殺事件が原因で窮地に陥るだろう。

第一 韓国は世界から非難され、その国際的な地位は大暴落するだろう。韓国人は世界を大手をふって歩けなくなる。韓国という国家の価値は一挙に地に落ちるのは間違いない。

第二 日韓の立場は逆転する。慰安婦問題などは、どこかにすっ飛んでしまっだろう。大量虐殺以上の人道問題はない。慰安婦問題など、大量虐殺事件の前には陰が薄い。

第三 日本に対する中韓包囲網から韓国を脱落させることができる。

二正面作戦を強いられていた日本は、中国一国に政治・外交を集中することができる。

第四 韓国とアメリカの慰安婦像を撤去させる。

第五 ベトナム人の犠牲者の慰霊碑を建立させる。

韓国との情報戦争に打ち勝たねばならない

今、日本と韓国は情報戦争（インテリジェンス戦争）の只中にある。韓国は、世界規模で、日本に情報戦争を仕掛けている。その事例が、①慰安婦像の設置であり、②正しい歴史認識の要求であり、③安重根記念館の建設であり、④日本海の呼称を「東海」へすり替える工作である。

残念ながら、現在までのところ、日韓の情報戦争は、韓国に圧倒され、日本の敗退が続いている。なぜか。日本には情報戦略がない。戦略がないゆえに組織がない。組織がないゆえに戦術も作戦計画もない。こ

れでは現代の情報戦を戦えるわけではない。

筆者は、主宰する研究会の中に、「情報本部」を創設した。民間の立場として、情報作戦を立案し、実行するための組織であり、情報戦を勝ち抜くための組織である。その一環として、「韓国の戦争犯罪調査チーム」を結成し、韓国の大量虐殺事件を調査してきた。すべて自費による活動である。筆者達が、計画している作戦は以下の通りである。

第一、韓国の大量虐殺事件を英文に翻訳してアメリカで出版する。続いて、ベトナム語、中国語、ドイツ語、フランス語など各国語に翻訳する。

第二、韓国大使館の前に「ベトナム人虐殺の像」を設置する。アメリカ各州にも設置する。

第三、韓国の大量虐殺を告発し、ベトナム人を慰霊する記念館「虐殺慰霊館」をつくる。

第四、韓国の虐殺責任者を国際刑事裁判所に告発する。

「ベトナム参戦勇士との出合いの場」を訪問する

今年五月の連休、一泊二日で、韓国に行ってきた。①「ベトナム参戦勇士との出合いの場」(参戦勇士の場と略する)、②「戦争記念館」(ソウル)の二カ所を調査してきた。

参戦勇士の場は、ソウルの北東、約九〇キロの江原道・華川にある。江原道は、冬のソナタのロケ地があり、平昌オリンピックも開かれる。

「参戦勇士の場」は、四万坪の広大な敷地の中に様々な施設が点在している。ベトナム戦争での韓国軍の戦いを記録した品物が展示してある。屋外には、ベトナムのクチトンネルを再現したトンネル、韓国軍兵士が戦っている模型像、訓練施設、内務班、食堂、野外での戦闘場面、戦車、大砲などが展示してある(写真10)。

華川のベトナム参戦勇士の施設や、ソウルの戦争記念館は、ベトナム戦争を反省していない証拠である。

る。どちらも韓国の戦争を賛美している。傲慢たらしく、自分たちの戦いぶりを誇っている。問題なのは、韓国軍によって虐殺されたベトナム人に対する尊敬の念や、慰霊の心が欠落していることである。ベトナム人の犠牲者を弔うための慰霊碑は存在しない。華川の施設も、ソウルの戦争記念館も、夜郎自大で、外華内貧、身の程しらず恥知らずの施設である。

北岡俊明氏「シンクタンク戦略大学」代表。日本ディベート研究協会会長。日本戦略研究協会会長、専門は「戦争論」「戦略論」「ディベート学」。著書「葉隠の経営学」「東京裁判をディベートする」「日本人の戦略的失敗」「国民のための戦史教科書」など多数。

北岡正敏氏 神奈川大学名誉教授・工学博士(京都大学)。中国瀋陽市、東北工学院(現東北大学)元客員教授、日本ロジステイクスシステム学会副会長、専門は「システム工学」「経営工学」「生産技術」。専門外の専門として歴史と戦争の研究。近刊「蒙古襲来の研究」。